

SDGsを取り入れた事業計画書

株式会社スリーハイ

1 企業・事業概要

① 企業概要と理念

当社は産業用ヒーターの製造・販売をしているメーカーである。オートメーション化せず、ハンドメイドにこだわる当社は、お客様のご要望に合わせたヒーターや、それに付随する製品をカスタムメイドしている。企業理念の「ものを思う。ひとを思う。」は、モノづくりを通じて、製品だけでなく関わる人たちを温めていきたいという想いを込めたものであり、そのなかには企業市民として地域を盛り上げていきたいという想いも重なっている。

② SDGs事業の概要

本事業を取り組む背景として、以下の3点である。

1. 当社が拠点を置く横浜市都筑区東山田地区は、準工業地域である。以前は、まち工場ばかりのエリアであったが、近年約80のまち工場とともに住居が混在する地域へと変遷を遂げた。地域住民とまち工場が相互の理解を促さなければ、まち工場の存続が危ぶまれる状況である。
2. 近年日本のものづくりの市場は縮小の一途を辿っており、国内だけでなく海外市場にも目を向けることが急務となっている。言語や文化の違いがあるなかで、当社の製品に手を取ってもらうためには、ユーザビリティを追求した発信が必要となっている。
3. 近年の女性の社会参画が目覚ましいものの、子育て中の女性の雇用率はいまだに低い。また、障がい者の雇用率も同様である。各々が働きやすい職場の実現と能力を最大限引き出せる教育システムの検討が必要である。

このような背景を踏まえて、本事業は企業理念「ものを思う。ひとを思う。」をもとに、「従業員」「地域・社会」「製品・顧客」「産業・インフラ」をキーワードにSDGs事業を進める。経済面では国内外問わずより多くの顧客のニーズにこたえる製品を世に送ることをミッションとし、新製品開発や販売活動を積極的に行う。また、社会面では、すべてのステークホルダーとの良好な関係性を維持・向上させ、東山田地域の発展に寄与していきたいと考えている。

2 SDGsとの紐づけ

① 具体的なアクション

本事業の取組をSDGsのゴールに紐づけると下記になる。(一部抜粋)

アクション① 従業員の期待役割を整備	⇒	アウトプット 地域の雇用創出に貢献	⇒	アウトカム 持続可能な共存共栄モデル	⇒	インパクト① 地域とともに繁栄する組織を形成し、ステークホルダーとの良好な関係性を構築	SDGs ゴール 4・8
アクション② 現状の見える化・内部資源の有効活用	⇒	アウトプット 販売戦略の策定及び実施・内部生産体制の強化	⇒	アウトカム 社会を支える製品の展開	⇒	インパクト② いまある資源を見える化し、国内外問わず社会を支える技術を提供	SDGs ゴール 9・11

② 社会的なリターン

地域とのつながりが当社の発展性と密に結びついている。当社で採用した地域住民は、「まち探検」など地域活動にも積極的で、当社の理念の体現に大きく寄与しており、地域におけるスリーハイのロイヤリティを向上させる。また、雇用した人が新しい人材を新たに紹介するといったリファラル採用が定着しており、雇用の確保につながっている。地域住民と東山田準工業地域の企業との良好な関係性の維持にも寄与している。さらに彼らは、定着率が高いため、長年の技術を継続させて、更にその技術を発展させ、顧客の獲得へと結びつけてくれるであろう。

3 経済的価値創出との関係

本事業の経済的なリターンは、「新製品の開発」と「新規顧客の獲得」である。過去の取引実績やお客様の声から顧客のニーズを抽出し、内在していた資源の有効活用方法を検討し、販売戦略の見直しや新製品の開発につなげる。また、国内に留まっていた顧客を、各国の気候や文化、インフラ設備等に応じた技術やサービスに応用し、海外を含めた新規顧客の獲得を目指す。

4 事業展開(スケジュール)

① 全体のスケジュール

各取組をスケジュールに当てはめると下表のようになる。最優先事項であるアクション①についてはモノづくり部パートのスキルマップ表の作成や2021年度からの組織再編を再検討するために業務の精査を行うなど従業員の役割の見える化を2020年12月から実行している。アクション①の責任者は組織のトップである社長、担当者は組織の取りまとめを担う徳江である。また、アクション②については、2021年2月から本格的に実施する。当社は過去に6,000社の取引実績があり、その取引実績や過去の失注先の整理・分析を行うことで、新規の顧客開拓を目指す。また、これまで活用できていなかった資源の販売や寄付など活用方法を検討する。アクション②の責任者は顧客営業統括本部本部長の松本、担当者は国内営業事業部リーダーの中山が担う。

	2020年	2021年											2022年
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	～
アクション①	→												
アクション②		→											

項目	アクションの概要	責任者・担当者	
		責任者	担当者
アクション①	従業員の期待役割を整備	社長	徳江
アクション②	現状の見える化・内部資源の有効活用	松本	中山

■社長メッセージ

タイトル「地域とともに生きる」

横浜市都筑区に私たち東山工業地域があります。ここには、製造業、建設業、卸売・小売業、サービス業などを営むさまざまな企業が集まっています。昔はもっと多くの企業がありましたが、廃業や移転で今は80社程度になりました。空いた土地には新しい家やマンションが建ち並び、いつのまにか、住宅街にある企業群、という様相へと変化していきました。

そこで、私たちは思いました。

これからは、地域のことを、もっと考えよう。

私たちのことを、もっと知ってもらい、私たちがこの地域で出来ることに、真剣に取り組んでいこう。

私たちは、8年前から、近隣小学校の3年生へ向け、東山田工業地域の社会科見学という試みをはじめています。この地域には様々な企業があり、汗をかき、真摯に働く大人たちがいます。地域の企業を見学することで、自分たちの住んでいるところにも、いろいろな仕事があること、そして、いろいろな何かがあること、を感じて欲しい。

ここで働く大人たちの姿が、子供たちのこれからの選択に少しでもお役にたてば、こんなに嬉しいことはありません。

子供たちが仕事を見にきてくれることで、私たちは自分たちを誇らしく思い、何故だか、もっと頑張ろうという気になってしまいます。

不思議なものです。

子供たちにとって、信頼できる大人がたくさんいる地域は、幸せだと思う。

地域とともに生きる。
株式会社スリーハイ